2012年11月1日

AUE News

第 50 号

編集・発行
愛知教育大学広報部会
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500

目 次

● 行事予定(11 月 1-15 日)
● トピックス
・日韓教育大学学長懇談会、晋州教育大学校総長一行の本学訪問
・大学院教育実践研究科（教職大学院）体験授業
・岡崎西高校生徒が本学見学
・障害学生支援大学長連絡会議
・保護者懇談会
・招へい教職員講演会
・法人文書管理者研修
・陸上競技部の中野弘幸さんを学長表彰
・「リベラルアーツ型教育の展開」シンポジウム 2012
・「秋の夜長に万華鏡」展
・「最強のしょくまるカレー」コンテスト
・全日本女子駅伝対校選手権大会に本学出場
・映画「南極料理人」上映会と講演会
● お知らせ・報告・投稿
・東海地区国立大学文化祭
・冬の省エネポスター募集
・文科省「情報ひろば」で本学の展示
・催しもの案内

行事予定(11/1-15)

6 日(火) 役員部局長会議（13：00～ 学長室）
7 日(水) 教務企画委員会（13：30～ 第二会議室）
学生支援委員会（13：30～ 第五会議室）
大学改革推進委員会（15：30～ 第三会議室）
8 日(木) 評価委員会（9：30～ 学長室）
13 日(火) 役員会（15：00～ 学長室）
14 日(水) 教育創造開発機構委員会（9：00～ 大学会館中会議室）
代議員会（13：30～ 第五会議室）
教育研究評議会（代議員会終了後、第五会議室）

トピックス

日韓教育大学学長懇談会(10/15)、晋州教育大学校総長一行の本学訪問(10/17)

10 月 15 日(月)，日韓教育大学学長懇談会が神戸市の国際会議場で開催され，日本からは本学の松田正久学長を含む 11 教育大学の学長が，韓国からは 10 の教育大学校総長が出席しました。

この懇談会は日韓における教育制度の現状説明や教育大学が抱える共通課題についての意見交換，国際交流活動を通じた両国の教育・研究の充実などを目的として 2008 年から毎年実施されており，今回 5 回目を迎えました。

冒頭，幹事校である兵庫教育大学長及び釜山教育大学校総長からのあいさつと出席者の紹介があり，続く会議では「教員養成の高度化(修士レベル化)」「教員養成の国際化」という二つのテーマについて日韓双方の代表による説明がなされ，

出席者の間で非常に活発な意見交換が行われました。

また 10 月 17 日(水)には，同懇談会に出席した晋州教育大学校の金善有総長と孔泳泰教授が本学を表敬訪問しました。金総長は昨年，晋州教育大学校総長に就任し，今回が初めての本学訪問。本学と晋州教育大学校は 1997 年の学術交流協定締結以来，双方向の学生短期研修や交換留学といった学生交流，教員の共同研究や教職員の研修などを通じて親密な協力関係を築いてきました。

松田学長と理事，国際交流センター長が出席した懇談の場では，留学制度の拡充や教職員招へい制度の推進が話題に上り，さらなる交流の活性化と良好な関係の維持に向けて今後も互いに努力していくことが確認されました。また，会談後には都築繁幸理事の案内で学生サポートセンターの見学が行われ，短時間ではありましたが大変有意義な訪問となりました。

（教育創造開発機構運営課　国際交流担当　宮内春菜）

大学院教育実践研究科（教職大学院）体験授業(10/17)

教職を目指す学生を対象とした教職大学院の体験授業と入試説明会が、10 月 17 日（水）に本学第一共通棟 103 教室で開催され、本学をはじめ他大学の学生や現職教員など計 22 人が参加しました。

今回のテーマは授業づくりで､佐藤洋一教授の授業「生きる勇気を与えることばの学習―伝統文化授業開発と言語の教育―」では、クイズ形式で展開される古典の授業に、受講者は時間を忘れて引きつけられていました。萩原孝准教授の授業「身近なものを教材化してみよう」は､身近なもの､意外なものを教材として使った社会科の授業で､教科書を読んでからではできない教え方を体験しました。受講者は自分の授業を振り返り､子どもたちが興味関心を持って授業に取り組むための方法について､学びを深めていました。

入試説明会では教職大学院についての詳しい説明に加え、学級づくり担当教員と教職大学院生も登場し、学級経営など教職大学院ならではの授業の説明と実際の学校生活や教職大学院での学びについて話しました。

終了後のアンケートには「刺激的で魅力的な授業を受けられて感動しました」「生徒の心をつかむ授業はとても為になった」「自分も真似したい要素が多数あった」「教職大学院にますます興味を感じる講義内容だった」など、満足感あふれる感想を多数いただきました。教職大学院の後期募集出願受付は 11 月 1 日（木）～8 日（木）､入試は 12 月 8 日（土）～9 日（日）に行われます。

（教務課　教職大学院担当係）

岡崎西高校生徒が本学見学（10/18）

10月18(木)，愛知県立岡崎西高等学校の１年生39人と教員2人が大学見学に訪れました。本部棟第五会議室で、大学の概要を紹介する映像を視聴した後，教務課、キャリア支援課，入試課の職員が説明。本年4月時点で，岡崎西高校出身の学生が22人在籍し、そのうちの2年生の2人が母校への思いと大学生活について、楽しく話をしました。その後雨の中、施設を見学。ガラス工房では，

佐々木雅浩准教授（美術教育）によるユーモアを交えた実演と説明に生徒たちの緊張感も溶けたようで、ガラス吹き体験に果敢に挑戦しました。

第二福利施設で学食のランチタイムを体験した後、真島聖子准教授（社会科教育）による模擬授業「どちらの教科書を選択しますか？」では、グループディスカッションを通じて、出版社2社の中学校社会科（公民分野）教科書を比較した上、いずれかの教科書を選び、高校生独自の視点から理由などを発表。生徒たちの学習意欲が小学校と中学校の教育現場の経験を持つ真島先生に上手く引き出され、引率の教員も生徒とともに意見を述べて、教室は熱気に包まれました。生徒の多くは見学前の教育大学への堅いイメージを払拭したようで、前向きで楽しい大学との感想も聞かれました。また教員志望の生徒が大半占めており、今回の見学を通して本学への興味が大きく膨らんだようでした。

障害学生支援大学長連絡会議(10/20)

10 月 20 日（土）午後 1 時 30 分から，名古屋国際センター5 階第一会議室で「障害学生支援大学長連絡会議」が開催されました。

この会議は，大学における障害学生に関する修学環境や支援体制をさらに整備・充実し，誰もがいつでも自らの選択で学ぶことができる高等教育のユニバーサル・アクセスの実現を図るため，今後の障害学生支援の在り方や大学間の連携・協力などを協議・調整するものです。障害学生を受け入れている大学のうち，全国 21 の国公私立大学が加盟，本年度は本学が当番大学として開催しました。

今回は，15 大学 26 人の学長，副学長などが出席。村上芳則筑波技術大学長および松田正久本学学長のあいさつの後，独立行政法人日本学生支援機構学生生活部特別支援課長、田中久仁彦氏による「我が国の高等教育機関における障害学生の実態」の講演があり，障害を持った学生の数や,各大学における支援体制など，平成 23 年度の全国調査結果を基にした説明がありました。質疑応答では「障害を持った学生の数については，国公私立別に把握しているのか」「障害学生に特化した奨学金リストがあるか」など詳細な情報を求める質問が投げかけられました。

会議の後半は，遠隔地通訳等におけるボランティアに対する謝金等の扱いや障害のある学生（聴覚障害）の授業の質保証や発達障害の学生に対する具体的な修学支援などの協議が行われ，各大学の実情や大学間連携の取り組みなど予定時間を超過するほどの活発な意見交換が行われました。

また，本連絡会議の今後の会議運営方法の審議や障害のある学生の修学支援に関する検討会の報告がなされ、その後も場所を移して情報交換会が行われ，参加者全員有意義な時間の共有となりました。

（総務課　企画評価室長　神谷和征）

保護者懇談会(10/21)

2012 年度の保護者懇談会が 10 月 21 日（日），本学で開催されました。午前の全体説明と午後の個別相談の 2 部構成で，全体説明は午前 10 時から講堂で行われ，保護者約 480 人が出席しました。名古屋、本学の 2 会場で実施し，好評だった昨年に続いて今回が 2 回目です。

全体説明では，松田正久学長が「休日の朝早くから懇談会にご参加いただき，ありがとうございます。大学の

役割には知の継承（教育），創造（研究），応用（貢献）があり，本学も国立大学として国民に理解される大学改革を進めていきたい」とあいさつを兼ねて国立大学を取り巻く現状，本学運営の実情などを説明しました。役員部局長紹介では，折出健二理事（総務担当）が壇上の役員，学系長，国際センター長，学長補佐、特別学長補佐、監事を紹介。続いて岩崎公弥理事（教育担当）が本学の教育について，都築繁幸理事（学生・連携担当）が学生生活，就職支援について，それぞれ説明しました。学長が「奨学金は貸付でなく給付にするよう国に要望しているが，どんな形でもいいので，皆さんも国立大学支援のメッセージを送っていただきたい」と保護者に呼び掛ける場面もありました。

午後からの個別相談で保護者はそれぞれの選修，専攻，コースごとに控え室に集まり，説明を受けてから，それぞれの会場で順番に教員との面談に臨み，日ごろの大学での勉学の様子や生活などについて教員の話を熱心に聴いていました。また，待ち時間に附属図書館，天文台，キャリア支援課の各施設を見学したり，講堂で学生サークルの演奏を楽しむ保護者もいて，学生が通う大学を身近に感じた様子でした。

招へい教職員講演会(10/22)

「海外協定校からの教職員招へいプログラム」による外国人招へい教職員を講師に迎えた講演会が，10 月 22 日(月)に本学大学会館において開催されました。昨年度に続いて今回が 2 回目。9 月から 2 カ月間の予定で本学に滞在している，中国・南京師範大学の季愛琴教授，台湾・国立彰化師範大学の郭鳳蘭教授，インドネシア・スラバヤ大学のルスミヤティ講師の 3 人が講師を務め，本学役員と教職員，留学生を含む学生が参加しました。

松田正久学長の開会のあいさつに続いて行われたルスミヤティ先生の講義では，インドネシアにおける日本語教育事情について，スラバヤ大学で行われている実際の授業内容や教授方法の紹介を交えながら説明がなされました。続く郭鳳蘭先生の講義では，日本語母語の英語学習者と中国語母語の英語学習者にとって共通の問題である，口語英語中の connected speech について，その特徴や対処法が詳しく解説され，語学等を専門とする教員や学生から高い関心を集めていました。季愛琴先生は，1972 年～2002 年における日本文学の中国語訳について，日本人にも馴染みの深い代表的な作品をとりあげながら，当時の中国の時代背景との関連も含めて説明されました。

講演終了後、松田学長による閉会のあいさつでは、「今回の招へいを今後の研究活動に存分に活かすとともに，ぜひ本学との学術交流活動をより一層推進していただきたい」と，3 人の講演者に対して温かな期待の言葉が贈られました。

今後も，国際交流センターでは，各国からの招へい教職員による多彩なテーマの講演会を実施していく予定です。　　　　　　（教育創造開発機構運営課　国際交流担当　宮内春菜）

法人文書管理研修(10/24)

本学では、法人文書管理規則第 24 条の規定に基づき、法人文書の管理を適切かつ効果的に行うために必要な知識と技術を習得するため、一般職員等に引き続き、文書管理者を対象にした法

人文書管理研修を 10 月 24 日（水）に実施し、全課長 13 人が参加しました。

研修では、濱田泰栄総務課長から、①法令等の構造、②本学法人文書管理規則、法人文書ファイル保存要領、③法人文書の管理体制、④文書管理者が果たす役割、⑤適切な管理のための実務上の課題について、説明がありました。

特に、文書管理者が果たすべき役割の中で、保存期間満了前の廃棄・移管の決定にあたって施行令第 9 条により延長保存しなければならないものがあること、複数の課で同類の文書ファイルが存在する場合は文書保存基準の作成にあたって調整が必要であることの説明がありました。また、法人文書ファイル等の紛失・誤廃棄の防止の徹底、法人文書ファイル管理状況の実地調査の実施について依頼がありました。

引き続き、参加者から法人文書に該当する電子データやメールの管理方法等について質疑応答があり、法人文書管理の重要性、文書管理者としての責任感など意識を新たにして研修を終了しました。

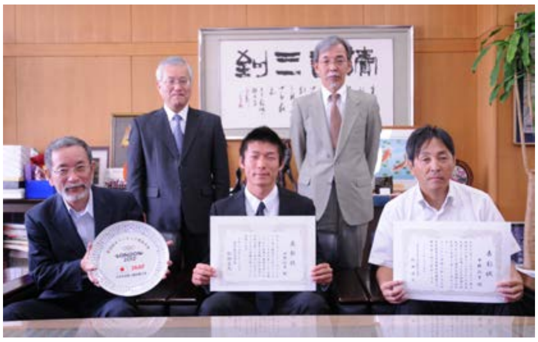
（秘書広報課長　伊藤純一）

陸上競技部の中野弘幸さんを学長表彰（10/25）

今夏のロンドンオリンピックに出場するなどめざましい活躍をした陸上競技部の中野弘幸さん（教育学研究科修士課程保健体育専攻 2 年）の功績をたたえる学長表彰が 10 月 25 日（木）に学長室で行われました。

中野さんへの学長表彰は昨年に続き、2 年連続。今年は 8 月のロンドン五輪に男子 1600m リレー日本チームのアンカーとして出場し、入賞はかなわなかったものの、国立大学から唯一の陸上代表選手として奮闘。9 月には日本学生選手権大会（インカレ）で、10 月には岐阜県での国体で、それぞれ男子 400m で優勝して注目を集め、本学の名誉を国内外で高めたとして表彰されました。

式には、松田正久学長、都築繁幸理事（学生・連携担当）、清水秀己創造科学系学系長、陸上部監督の筒井清次郎教授（保健体育）が出席。松田学長から表彰状と教育研究基金からの報奨金が手渡されました。松田学長は「（陸上競技には）いい環境とは言えない中で、オリンピックに出場したことは本当にすごいことだと改めて思います。後輩たちの活躍も続いていて、君の言う“自分で考える”ことの大切さを立証してくれている」と賞賛。都築理事、清水学系長も「これにとどまることなく、今後も頑張ってください」とさらなる激励の言葉を贈りました。これを受けて中野さんは「今年は学長が要所要所で美味しい食事を食べさせてくれて、それが原動力になりました（笑）。来年からは小学校の教員をしながら、競技も続けていきたい。その前に修士論文を仕上げて、無事に修了します」と力強く抱負を語りました。



「秋の夜長に万華鏡」展（10/25-30）

万華鏡の魅力を紹介する展覧会「秋の夜長に万華鏡～鏡の不思議・美しい幾何学模様～」が 10 月 25 日（木）～30 日（火）、刈谷駅前商店街のスペース Aqua で開催されました。

本学と同商店街との連携企画「ＵＮＯセレクション」の第 6 弾として、本学卒業生で名古屋市在住の万華鏡作家、石田千香子さんの作品を紹介。石田さんは 1983 年に美術工芸科を卒業して

工芸作家に。12，13 年前に、お気に入りだった万華鏡をなくし、同じものを探してみたものの見つからず、ならば自分でと、万華鏡を制作。以来、鏡を使った作品や

筒型、球形など多彩な形と素材の万華鏡を作り続けて、博物館やギャラリーなどでの個展やグループ展に多数出展。今回は恩師の宇納一公特別教授（美術教育）から要請で“登板”、約 30 点の作品を展示しました。手にとって鏡の不思議な世界を体験でき、会場のあちこちから「きれい！」「面白い！」と歓声が上がっていました。

28 日（日）にはワークショップが開かれ、親子連れなどが万華鏡づくりに挑戦。石田さんの指導で特製の紙筒の中に 2 枚の鏡を固定し、筒の先にガラス玉やラメなどのオブジェの入った透明ケースを取り付

けるなどして、2 時間弱で本格的なオリジナル万華鏡を完成させました。「万華鏡の構造も分かってよかった」「入れる物が違うと、のぞいた時の模様も違って楽しい」と好評でした。石田さんは「二つと同じ物がないし、その都度、いろいろな表情を見せてくれて驚かされます」と万華鏡の魅力を語っていました。

「リベラル･アーツ型教育の展開」シンポジウム 2012（10/27）

10 月 27 日（土）午後 1 時から、名古屋駅近くの「ウィンクあいち」で、本学主催の「リベラル・アーツ型教育の展開」シンポジウム 2012 が開催されました。

松田正久学長による開会あいさつ、清田雄治学長補佐よるシンポジウム趣旨説明の後、第 1 部の講演会が催されました。関西大学教授の安藤輝次氏による講演「学習成果を重視した教養教育とその評価―アルバーノ大学の事例をもとに」では、大学において育成すべき諸能力を明確化し、それを各授業のゴールとして設定する、アルバーノ大学の学習結果重視型の一般教育カリキュラム改革が紹介され、それを日本の大学で実践することの意義と解決すべき点が示されました。

第 2 部では、高橋真聡教授（理科教育）の司会で、田村建一教授（日本語教育）が、リベラル・アーツ・プロジェクトが進めている四つのリテラシーのマッピングの紹介と共に、パネル・ディスカッションの趣旨を説明。次に、ジェネリック・スキルを検討するために実施したアンケート結果について久保田祐歌研究員が報告しました。それらを踏まえて、市民リテラシーから渡

邉英幸講師（社会科教育）、多文化リテラシーから嶺崎寛子講師（社会科教育）、科学リテラシーから加藤淳太郎准教授（理科教育）、ものづくりリテラシーから佐々木雅浩准教授（美術教育）が、学生の主体的な学びを実現するために、どのような工夫のもと担当授業を設計するのか、専門領域の事情も踏まえつつ紹介しました。多人数の受講者を前にどのような参加型授業が実現し得るのか、その時いかなる評価が相応しいのかが、解決するべき問題として浮かび上がりました。

最後に折出健二総務担当理事が閉会の辞を述べ、シンポジウムは幕を閉じました。参加者は、本学関係者 36 人、学外から 17 人の合計 53 人でした。第 1 部、第 2 部共に、参加者から質問や意見が活発に出され、それぞれの立場から新たな教育方法を探求する意義を再確認する機会にな

ったと感じました。
（教育創造開発機構大学教育研究センターリベラル・アーツ教育部門研究員　長谷川詩織）

しょくまるカレーコンテスト(10/28)

刈谷市が地元の食材を使って栄養バランスを考えてもらおうと、「最強のしょくまるカレー」のレシピを募集し、最終選考となるコンテスト本選が 10 月 28 日（日）、刈谷市北部生涯学習センターで行われました。

刈谷市では、本学で誕生した食育キャラクター「しょくまるファイブ」を活用して、バランスのいい食生活を子どもたちに意識してもらおうと、同市経済環境部農政課が主催してコンテストを計画、市民グループ「食まるファイブ応援団刈谷」の協力で実施しました。市内の小学 5、6 年生を対象に、レシピを募集したところ、672 件もの応募があり、そこから書類審査で厳選された 5 件によるコンテスト本選となり、この日、実際に応募者が親子で調理して味とアイデアを競いました。地元食材を取り入れるのが条件とあって、切り干し大根や梨、トマト、ナス、豚肉などを使って、五つの栄養素が取れるのが特徴。5 組の親子は協力して、料理を完成させました。味や見た目、栄養バランス、親子の協力度などが審査され、グランプリは、かりがね小学校の塚本壮哉さん親子の「切り干し大根アンドパイナップルカレー」に決定。塚本さん親子は「切り干し大根は炒めて、特有のにおいを抑え、シャキシャキした食感は生かすなどに工夫。パイナップルの甘さで子どもも喜ぶ味にしました」とアピール。

審査員長を務めた食まるファイブの“生みの親”西村敬子特別教授（家政教育）は「とてもすてきなカレーを作っていただきました。どれを食べても優劣つけがたい、刈谷の宝にしたい」と講評。グランプリのカレーは 11 月 5 日（月）～10 日（土）、刈谷駅前商店街のスペース Aqua で開催される「しょくまるファイブ展」で 10 日（土）、事前申し込みをした先着 50 人に振る舞われます。

全日本大学女子駅伝対校選手権大会で本学健闘(10/28)

仙台市で10月28日（日）に行われた「第30回全日本大学女子駅伝対校選手権大会」に本学の陸上競技部が24年ぶりに出場しました。同部の登録選手10人のうち、安藤実来、小林愛実、荻野夏帆、服部綾実、鈴木佑佳、花岡紗耶の6選手が6区間、計38.6kmを2時間20分11で走り抜き、結果は28チーム中、22位と健闘。これにより、来年度の東海地区大学の出場権2枠を獲得して、次回の出場にも期待がかかります。

映画「南極料理人」上映会(10/31)

附属図書館のアイ❤スペースで映画「南極料理人」の上映会が 10 月 31 日（水）午後 1 時 30 分から行われました。
同図書館では、他大学での映画上映と書籍を連動したユニークな企画を本学でもと、今回の上映会を計画。南極をテーマにした書籍と南極にある日本の基地での生活ぶりや人間模様を描いて話題になった映画「南極料理人」（2010 年、堺雅人主演）を関連させて紹介する新たな試みを実施。

上映会には学生、教職員ら約 20 人が参加し、開館中とあってヘッドフォンを使って鑑賞しました。

映画の後、文科省からの派遣で南極に滞在したことのある戸田茂准教授（理科教育）によるトークも。戸田准教授は「映画は、かなり忠実に描いていました。私は夏だけの滞在でしたが、毎日楽しかったです」と、自ら撮影した南極での食事や調査、ペンギンやアザラシなどの写真を紹介しながら、現地での暮らしぶりや自然環境を説明。また、南極から持ち帰った氷の実物も持参し、参加者は順番に氷を手にして極限の地に思いをはせる姿も見られました。

「研究者や機器のメーカーの人のほか、今は小中高校の現職教員も派遣がありますから、学生さんなら若いうち経験してみるのもいいですよ」との提案もありました。

上映会を企画した職員は「図書館に展示スペースもあり、映像を上映できる設備もあったので、図書と映画を一緒に楽しんでもらえるようにと思い、試験的に実施しました。これからも機会があれば、やっていきたい」と話していました。

お知らせ・報告・投稿

東海地区国立大学文化祭（報告）

10 月13 日（土），14 日（日）に「第57 回東海地区国立大学文化祭」が知立市文化会館パティオ池鯉鮒で開催されました。本学が当番校となり東海地区の8 国立大学（三重，静岡，名古屋，岐阜，浜松医科，名古屋工業，豊橋技術科学，愛知教育） が演劇部門（演劇・能楽・奇術），美術部門（絵画・写真・手芸），音楽部門（バンド・合唱・合奏）の3 部門に分かれて参加しました。

初日の開会式では，運営委員長である都築繁幸学生・連携担当理事が「日ごろの練習成果を発揮し，この機会に他大学との交流を積極的に行い，会終了後も同じ志をずっと持ってほしい」とあいさつして，2日間の催しが開幕。本学からは9 団体が参加し，演劇部門では『能楽部』が初参加で新しい分野として能を舞い，トリとして『劇団把゜夢』が多くの観客を魅了した。美術部門では『手芸サークルCRAFT』が唯一手芸作品を展示し，豊かな表現力とともに来場者の目を楽しませた。音楽部門では『軽音楽部』，『フォークソング部』，『音楽サークルSPOON』のバンドと『混声合唱団』，『アカペラサークルPremier』の合唱と『オカリナサークルTOTORO』の合奏で，日ごろの練習の成果を精一杯に発揮し，見事にやり遂げました。他大学では，毎年参加しているプロ並みの演奏をする団体や初参加で初々しい演奏をしている団体も参加し，文化祭を盛り上げていました。来場者のアンケートでは「楽しかった」「感動しました」「もっと長く見たい」「他のジャンルも見たい，ダンスとか」等，多くの意見や感想をいただきました。この内容は，文化系クラブ・サークルの活性化につながるよう来年度の当番大学である三重大学に引き継がれました。

（学生支援課　課外教育係長　亀山重人）

冬季の省エネポスター募集（お知らせ）

本学では、冬の省エネルギーの呼び掛けを目的にしたポスターを下記の要領で募集しています。

1. テーマ　「冬季の省エネルギーについて」
2. 応募締め切り　2012 年 11 月 22 日（木）
3. 対象者　附属校園（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、養護学校）の園児・児童・生徒、本学の学生・教職員
4. 作品の仕様　Ａ３用紙またはＡ４用紙（縦横自由）
画材は絵の具、色鉛筆、クレヨン、ＣＧなど
作品内に省エネについての標語を入れてください。
5. 審査および表彰　厳正な審査の上、入賞作品を選定。
最優秀賞に図書券 5000 円分、優秀賞に図書券 2000 円分
6. 提出場所　大学本部等２階　施設課
7. 応募上の注意点　応募作品は原則として返却しません。適宜本学で利用させていただきます。応募作品の裏側に、必ず氏名（ふりがな）、連絡先、所属等を明記してください。応募作品は未発表のオリジナルとし、本人が著作権を有するもの。
8. 問い合わせ　財務部施設課技術専門グループ　機械担当　谷川
℡０５６６・２６・２１５８
E-mail:mtanikawa@office.aichi-edu.ac.jp

文科省「情報ひろば」で本学の展示（お知らせ）

文部科学省ミュージアム「情報ひろば」（旧庁舎3階）で、本学の企画展示「摩擦の科学」を開催中です。12月末まで。

三浦浩治教授（理科教育）が中心になって行っている、摩擦ゼロ機構を解明する「超潤滑」の研究内容とその成果をパネルや実物展示で紹介しています。

入場無料、開館は午前 10 時～午後 6 時。展示の詳細、会場の模様などは、下記の URL でご覧いただけます。文科省を訪問される折には、ぜひお立ち寄りください。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/10/1326348.htm

催しもの案内

◆美術専修・専攻２年　風景写生展
11 月２日（金）～30 日（金）
附属図書館２階　アイ❤スペース

◆講演会「外国人児童生徒支援を多角的に考える」
11 月３日（土）13：00～16：45（受付 12：30～）　参加無料
本部棟３階　第五会議室
定員：120 人
内容：第１部　13：10～14：50
講演「ブラジルでの自己教育体験と帰伯児童教育現状」
講師・日野寛幸氏（元サンパウロ州教育局主任などを歴任）
第２部　15：00～16：40
講演「個別の教育支援を必要とする子どもたち」
講師・佐藤和吉氏（愛知県小牧市立小牧南小学校　特別支援教室担任）

申し込み：メールまたはファクスで。
問い合わせ：外国人児童生徒支援リソースルーム　℡０５６６・２６・２２１９

◆あいちESDフェスタ2012
11月3日（土）4日(日)
愛・地球博記念公園（モリコロパーク、長久手町）地球市民交流センター内
「愛知こどものものづくり」体験として、伝統的・先端技術のものづくり、「国際教育協力」展示コーナー、留学生による話などを実施。
問い合わせ：エコマネーセンター　℡０５２・３２４・６１４２

◆しょくまるファイブ展～メタボ軍団をやっつけろ！～
11月5日（月）～10日（土）10：00～17：00　＊5日は13：00～
刈谷駅前商店街　駅前ギャラリー「スペースＡｑｕａ」
Ｕｎｏセレクションの第7弾。愛教大から生まれた食育キャラクター「しょくまるファイブ」の紹介。
11月10日（土）11：00～13：00には、地元食材を使った「最強のしょくまるカレー」コンテスト上位入賞カレーの試食会を開催。事前申込必要。
問い合わせ：刈谷駅前商店街振興組合　澤田さん　℡０５６６・２１・１１０９

◆秋のランチタイムコンサート
11月7日（水）12：30～13：15　入場無料
附属図書館2階　アイ❤スペース
音楽科の大学院生による　ピアノソロ、連弾、声楽ソロ、アンサンブルなど。

◆愛知教育大学地域連携フォーラム2012
11月10日（土）13：00～16：30　入場無料
大学会館会議室
主催：教育創造開発機構・地域連携センター
テーマ：愛知教育大学の地域連携における活動と今後の展望―学生の地域の活動を中心に―
内容：セッション1「地域連携センターの活動と地域連携」、セッション2「学生の課外活動と地域連携」、パネル・ディスカッション「大学の地域貢献のありかた：学生ボランティア活動と地域のニーズ」。
問い合わせ：教育創造開発機構運営課　℡０５６６・２６・２１２９

◆秋の祭典2012
11月10日（土）11日（日）
第一共通棟などキャンパス一帯
テーマは「天まで轟け　秋祭音頭」。
今回の目玉企画は10日が、学内に隠れた秋祭キャラクター、祭（サイ）君を捜す「ＷＡＮＴＥＤ！」、11日は教員を目指す愛教大の学生にお勧めの「人生ゲーム Ver.teacher」。スポ祭はバドミントン、バスケットボール、バレーボール、ミニサッカー、ドッジボール、ソフトボール。そのほか、ミニゲーム、出店、ステージ、ビンゴ大会（11日午後）など。詳細は秋祭ＨＰを参照。
http://www.aue-festival.aichi-edu.ac.jp/akisai/akisai2012/index.html

◆第6回科学・ものづくりフェスタ＠愛教大
11月17日（土）10：00～16：00　入場無料、事前申し込み不要
第一共通棟
対象：小中学生、高校生、教員、一般

訪問科学実験、ものづくり教室、天文台一般公開など計33プログラム。ランチタイム・レクチャー（12：30～）のテーマは「今はいつ？ 宇宙の始まり」（講師：澤武文教授）。
問い合わせ：科学・ものづくり教育推進センター
℡０５６６・２６・２３１２
ホームページ URL http://www.step.aichi-edu.ac.jp

◆第77回愛知教育大学天文台一般公開
11月17日（土）10：00～20：00
自然科学棟屋上天文台、第一共通棟106室など
天文工作教室「星座早見盤を作ろう！」（10：00～16：00）、「３D宇宙の旅」上映会（10：00～16：00、18：00～）、星空観望会（10：30～12：00、14：00～15：30、18：00～20：00）、天文ミニ講座「今はいつ？ 宇宙の始まり」（17：00～18：00、講師：澤武文教授）
問い合わせ：理科教育講座 天文学研究室
℡０５６６・２６・２６２４
ホームページ URL http://tenmon.phyas.aichi-edu.ac.jp/

◆愛知教育大学教育実践研究科（教職大学院）「フォローアップ研修会」
11月17日（土）13：00～16：30 参加無料、要予約
ウインクあいち（愛知県産業労働センター、名古屋市中村区）1003（中会議室）
本学教育実践研究科（教職大学院）の修了生を支援する取り組みを一般公開。
内容：13：00受付開始
13：35講演 藤田武志氏（日本女子大学准教授）
14：45実践発表 都筑 太（知立市立竜北中学校、1期生）
堀部美咲（犬山市立犬山西小学校、2期生）
中村浩二（名古屋市立明正小学校、3期生）
15：50グループ交流（終了16:30）
問い合わせ：教務課 ℡０５６６・２６・２６７９
E-mail:support_ml@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

編集後記

「ＡＵＥ Ｎｅｗｓ」は今回が第50号。月に2回、大学のニュース・話題をお知らせしていますが、おかげさまで徐々に投稿記事も増えて、スタート当初より内容が充実してきました。現在はシステムの都合上、大学ホームページなどでご覧いただけるのは2週間分のニュースをまとめたPDFファイルですが、今後はより早く、見やすいニュースになるよう工夫していくつもりです。寄稿してくださった皆さん、取材に協力してくださった皆さん、ニュースを見てくださった皆さん、ありがとうございました。そして、これからもどうぞよろしくお願いします。（K）

国立大学の在り方が多面的に問われている今、広報の役割は、ますます大きくなっています。今後とも「ＡＵＥ Ｎｅws」をよろしくお願いします。（理事 折出健二）

投稿のお願い

学内外の出来事（教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など）に関するニュースの提供をお待ちしております。
メール：kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者：総務担当理事 折出 健二